

令和元年度
第2回大野市総合教育会議
会議録

日 時：令和2年2月21日（金）午前9時30分～11時20分

場 所：大野市役所 大会議室

大野市総合教育会議

日時：令和2年2月21日（金）

午前9時30分～

場所：市役所 大会議室

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 令和2年度大野市教育方針（素案）について

(2) その他

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育長職務代理者	麻 生 博 之
4	教育委員	關 園 子
5	教育委員	馬 道 保
6	教育委員	松 谷 由 美

(事務局)

1	政策局長	川 端 秀 和
2	総合政策課長	真 田 正 幸
3	教育委員会事務局長	清 水 啓 司
4	教育総務課長	横 田 晃 弘
5	学校教育審議監	千 田 佐
6	生涯学習課長	中 村 吉 孝
7	スポーツ振興室長	多 田 直 人
8	文化財課長	佐々木伸治
9	教育総務課企画主査	竹 田 雄 次

<傍聴者>

2人

1 開会

【市長】本日は2人の傍聴を許可したので報告する。

【教育総務課長】ただ今から、本年度第2回の大野市総合教育会議を開会する。

総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して教育行政の推進を図ることを目的に設置されたもので、会議の構成員は地方公共団体の長と教育委員会と定められている。

本日の会議は、令和2年度大野市教育方針（素案）について、市長と教育委員会が意見交換を行うことを目的に開催する。

――<市民憲章・教育理念の唱和>――

――<出席者の紹介>――

2 市長あいさつ

【市長】お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。今回は新たに馬道委員と松谷委員を迎えての総合教育会議となる。心を新たにして頑張っていきたい。一口に教育行政といっても、子どもたちの教育現場のことはもちろん、生涯学習、文化の振興、文化財の保護、スポーツの振興と多岐の分野に渡っている。定例教育委員会はもちろん、様々な行事に際して、現場で市民の活動をつぶさにご覧いただいていること、温かく見守っていただいていることに感謝申し上げます。平成26年度までは、政治家である市長が教育行政についてもものを申すことははばかれるということがあったが、法律の改正に伴い、公の場で教育委員の皆様と大野市の教育行政について意見交換をする場として設けられたのが、この総合教育会議である。これから令和2年度を迎えるに当たり、どのように協力していけるかについて話し合いたい。それぞれの立場あるいは役割をしっかりと果たしていくことができれば大変ありがたいと思う。限られた時間ではあるが、有意義な会議となるようご祈念申し上げます。

3 協議

【市長】協議事項「（1）令和2年度大野市教育方針（素案）について」を議題とする。事務局の説明をお願いします。

――<各課室長説明>――

【市長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【馬道委員】成果指標から、いじめの認知件数を削除した理由は何か。

【教育総務課長】本年度の教育方針では、いじめの認知件数について昨年度を上回るという成果指標を設定していた。いじめの認知範囲を広げたことにより、いじめの認知件数は以前より増加している。しかし、いじめ自体は発生しないことが

望ましいことであり、単にいじめの認知件数が前年度を上回ることが成果指標として適切かということを経済局で検討した。その結果、令和2年度については、発生したいじめにきちんと対応していくことが重要と考え、成果指標は、いじめの解消率のみとしたいと考えた。いじめの解消については、いじめが止んでから少なくとも3カ月経過しないと解消とみなさないため、現実的には年度末に発生したいじめが年度内に解消となることはないが、目標としては解消率100パーセントを目指したいと考えている。

【教育長】いじめの認知件数としては、平成28年度が小中合わせて7件、29年度が8件、30年度が22件、令和元年度が22件である。30年度からいじめの認知範囲を広げ、ちょっとしたからかいやトラブルであっても、そこに深刻な背景がないかをしっかりと捉えられるよう取り組んできたので、認知件数は増加した。今後は認知したいじめをしっかりと解消していくことに焦点を当てたいということで、このような成果指標を設定したいと考えている。

【關委員】情報化社会に対応できる人づくりの項目に、タブレット端末の活用とあるが、どのような活用を考えているのか。

【審議監】本年度、小学校にタブレット端末を配備した。それに伴い、タブレット端末の活用方法とプログラミング教育に関する研修を2回実施した。各小中学校の教員が参加し熱心に取り組んだ。教員も一緒に学びながら、活用方法を考えていきたい。

【關委員】子どもたちの中には、ディスレクシアという文字の読み書きに困難を抱えている子どもがいる。そのような子どもには、文字を拡大できるタブレット端末は大きな支援となる。プログラミング教育だけではなく、一人ひとりのニーズに応じた支援にもタブレット端末を活用してもらいたい。

【審議監】特別支援教育においては、学級担任が自分のタブレット端末を使い、文字の拡大機能などを活用した教育に先取りして取り組んでいる。

【麻生委員】いじめ・不登校の未然防止と早期発見・事案対処に努めるとあるが、いじめは絶対にいけないことであり、努めるという表現では弱いと思う。もう少し決意が表れると良いと思う。

【審議監】いじめに関する表現については、再度、事務局で検討する。

【麻生委員】「学校業務改善方針」及び「部活動の在り方に関する方針」に基づき、教職員の働き方改革を推進するとあるが、この方針について説明願いたい。

【審議監】働き方改革については、大野市教育委員会の方針では1カ月の超過勤務の上限を80時間としているが、国は45時間とする方針を出してきた。また、令和3年度から、夏休みのまとめ取りができるようにしようという方針も出されている。大野市教育委員会で策定した「学校業務改善方針」と「部活動の在り方に関する方針」に基づいて教職員の働き方改革を進めていくが、そういった国の動向も見ながら、さらに働き方改革を進めていく必要があると考えている。

【松谷委員】現在、小学校3，4年生が外国語活動に取り組んでいるが、タブレット端末などを活用し映像も使いながら、もっと早い時期から外国語に親しませても良いと思う。生まれた時から外国語が体に入ってくるような環境をつくってほしい。

【審議監】現在、ALT（外国語指導助手）を3人配置していることで、毎週、5，6年生の英語の授業には必ずALTが入って外国語の授業を行えている。5，6年生以外の児童をALTが直接指導することはないが、休み時間の様子を見ると、ALTが1，2年生と一緒に遊んでいたりと、廊下ですれ違ったときに話しかけたりと、学校に溶け込んでいる様子が見られる。子どもたちも外国人に対して抵抗がなく、外国語に対して強い興味を示している。ALTが日常的に学校に滞在することの効果表れていると感じている。

【松谷委員】ICT機器を活用して授業を配信するなど、不登校の子どもたちが家庭で授業を受けられるような取り組みは考えているか。

【審議監】かなり難しいが、将来的には可能になるかもしれない。佐賀県の高校では、タブレット端末で授業を受けて、その内容を家庭の自分のタブレット端末でも確認できるような取り組みが行われている。不登校の子どもたちに対しては、家庭でICT機器を活用して学習すれば出席扱いにできると文部科学省が認めている。

【市長】いじめや不登校について、きちんと対応されていると感じる。総合教育会議が立ち上がった経過として、教育委員会と市長部局が意思を統一し、子どもに危険が迫ったときには、即座に動いて踏み込んでいけるようにしようという考えがあった。平成30年度の総合教育会議でもいじめ、不登校について話し合い、教育委員会としては認知件数を増やすことを目標に取り組んでこられた。その成果が出て認知件数が増え、そこからいじめの解消率を上げることに進んできているということで頼もしく拝見している。

タブレット端末については、パソコンや電子黒板の整備が一巡しパソコンを入れ替える時期が来たので、今後はタブレット端末を活用していこうということで、本年度、小学校にタブレット端末を整備した。そのような中で、文部科学省から1人に1台のパソコンを整備しようというGIGAスクール構想が出てきたので、限られた財源ではあるが、全国の流れにしっかり乗って情報化社会に対応できる教育環境を整えていきたいと考えている。

来年度の策定に向けて、第六次大野市総合計画の検討を進めている。その中で「SDGs（持続可能な開発目標）を意識」と記載している。SDGsの17の目標は世界共通の目標であり、本市においてもこの視点を考慮しながら様々な施策を進めたいと考えている。教育委員会としても教育方針に「SDGs（持続可能な開発目標）を意識」と記載いただけるのであればありがたい。先ほど、タブレット端末が障害のある子どもの学習に有効であるという話があったが、この気づきが正

に SDGs の視点である。教育分野の ICT 機器が福祉分野でも活用を広げられるということである。誰一人取り残さない指針が SDGs である。

安心して子どもを生み育てられる環境を整え、子育て世代を支援するという記載について、本年度、大野市子ども・子育て事業計画の次期五カ年計画の検討を進めてきた。この計画には、小・中学校に関係することも含まれるので、教育委員会部局にも協力いただいて策定を進めてきた。その中で、子育て世代への支援をパッケージとして示していこうと取り組んできた。こうした点について、市長部局と教育委員会部局が同じ方向性で力強く進めていけたら大変ありがたい。

小中学校の再編計画の見直しについては、私が就任してすぐに、市民の皆様の意見を聞きながら見直しをお願いしたいと教育委員会に申し上げた。着実に丁寧に進めていただいていることに感謝申し上げる。今後も合意形成を図りながら着実に進めていただけるようご尽力をお願いする。

文化会館の整備については、昨年3月の市議会で予算をお認めいただいた。その上で付帯決議が付き、教育委員会事務局で資料を作成し説明を続けている段階である。ここに記載されている方向性で引き続きお願いしたい。

【馬道委員】ふるさと芸能発表会は、令和2年度も8月13日の開催を予定しているのか。公民館主体に移行し、できるだけ学校の負担を少なくするという方向で進んでいたと思う。学校や子どもの関わり方について教えてほしい。

【生涯学習課長】8月14日から16日は学校が閉庁日なので、その期間には開催しないということで、本年度から8月13日に開催している。令和2年度は公民館が主体となって開催したいと考えている。学校には、できる範囲で児童や保護者への連絡などをお願いしたいと考えている。

【馬道委員】当日の引率は学校職員に依頼するのか。

【生涯学習課長】これから打合せしながら決めていく。

【馬道委員】成果指標の COCONO アートプレイスの来館者数と観覧者数の違いは何か。

【生涯学習課長】COCONO アートプレイスには出入口にセンサーが設置してあり、人が入って出ると機械的に1人とカウントされる。COCONO アートプレイスには中心市街地活性化という視点もあり、ショップや喫茶を含めた COCONO アートプレイスの施設全体に何人が訪れたかという観点で計測している。これが来館者数である。また、観覧者数とは、COCONO アートプレイスのギャラリーに入った人の数である。

【關委員】地域活動を担う市内青年グループの発掘と育成を図るとあるが、待っていても向こうから来ることはないので、行政から出て行って見つけてもらいたい。先日、若者が集まっている場所へ行って話を聞いてきた。東京在住の人が、大野が大好きなので六呂師の棚田でビアガーデンを開きたいと言っていた。勝山市に住んでいる人で、大野が好きなので4月から大野市に住むという人がいた。大野

が好きだという人はあちこちにいる。そういう所へ職員が出て行って、応援するという話をすれば、青年グループの発掘が進んでいくと思う。

文化会館において、文化講演会やこどもオペラ公演等、優れた文化芸術に触れる機会を提供するとあるが、色々な人の、特に文化会館をあまり利用しない人の意見を聞いて考えると、色々な人に文化会館を訪れてもらえるようになると思う。

放課後子ども教室等で、英会話教室や国際理解を深める事業を行い国際感覚を養うとあるが、放課後子ども教室には参加していない子どももいる。放課後子ども教室だけで行うのは不平等と思われるので、放課後子ども教室以外でも考えてもらいたい。

市の生涯学習人材活用事業には、英会話を教えられる人の登録がない。ALT が登録してくれると、外国人客がお店や旅館を訪れたときの対応のために、商店街がこの事業を利用するかもしれない。私は外国人と触れ合うことがないので、学校で勉強した英語が出てこない。英語の学び直しをしたいと思うので、みんなでできると良いと思う。

【市長】実際に事業を運営していく上でのアイデアだと思う。参考にしてもらいたい。

【馬道委員】感性はがき展事業の記載がなくなっているが、感性はがき展事業を廃止するのであれば、代わるものとして COCONO アートプレイスで大野の自然などに関する写真展を開催すると良いと思う。

【市長】参考にしてもらいたい。

生涯学習の推進の中で、人生100年時代を見据えた人づくりは良いと思う。昨年5月の教育シンポジウムで、学び直しが必要な社会になったと聞いた。大学を卒業したら学びが終わりではなく、いくつになっても学び直しができるということを教えていただいた。教育委員会が開催するフォーラムやシンポジウムについては、できるだけ市民に開いた形で開催いただきありがたかった。これからも市長部局、教育委員会部局ともに、市民と一緒に学べる場をつくり出していけたら良いと思う。

【松谷委員】スポーツ少年団や中学生ジュニアクラブへの支援について、現在、支援を行っている団体数と支援の効果を教えてもらいたい。

【スポーツ振興室長】本年度のスポーツ少年団の登録数は27である。全ての少年団に対して、団数に応じた支援やスポーツ保険の加入に対する助成などを行っている。効果としては、少年団の経済的負担の軽減になっている。

【麻生委員】ラジオ体操について、企業等にCD等を配布してラジオ体操を広めていけると、市民全体の健康推進になると思う。

本年度は、エキサイト広場にランニングマシンの増設があったが、来年度は何か計画しているのか。

- 【スポーツ振興室長】筋力トレーニングの機器が老朽化しているので、入れ替えたいと考えている。
- 【馬道委員】夏休み中に各地区でラジオ体操を行っているが、年々、参加する子どもが減少している。数年前から高齢者も参加してくれるようになり、少しずつ参加者は増えているが、それぞれの地区の老人クラブに参加を呼び掛けると良いと思う。私が富田小学校で勤務していたときは、どの地区でいつからいつまでラジオ体操を行っているという一覧表を公民館に渡して参加を呼び掛けた。
- 【市長】育成会で計画を立てて老人クラブに声掛けすると賛同いただけると思う。部局を越えて、民間の方にも参加していただいで一緒に取り組んでいきたい。健康のまちづくりは、本年度から市長部局と教育委員会部局が連携して重点的に取り組んでいるので、引き続き力を入れて取り組んでいきたい。
- 【馬道委員】名水マラソンについて、新型コロナウイルスの影響はどうか。5月開催であれば大丈夫か。
- 【スポーツ振興室長】全国の状況を見ると、3月上旬までのマラソン大会が中止になっている。県内のマラソン大会は、3月から6月の開催が中心であるが、まだ中止を決定した大会はない。名水マラソンについては、教育委員会で検討していきたい。
- 【馬道委員】六呂師高原スキーパークについて、もう少し積極的に利用すると良いと思う。重点的に取り組む事業に、六呂師高原スキーパークの利用促進に努めると追加すると良い。成果指標にも六呂師高原スキーパークの利用者数を追加すると良いと思う。
- 【市長】六呂師高原スキーパークは、市長部局の商工観光振興課の所管である。県が整備し、本市が指定管理者として運営している。ご意見のとおり積極的な活用に努めていきたい。
- 【關委員】子育て世代への支援ということで、夏休み・冬休み期間中の休館日にエキサイト広場のアリーナ等を無料開放するとある。本市は雨や雪の日が1年の半分程度を占めているので、天候が悪いときに子どもたちが遊べる場所があると良いと思っていたのでありがたいと思う。
- 【馬道委員】和泉郷土資料館がリニューアルされてとても良くなった。和泉郷土資料館、化石発掘体験センターHOROSSA!の活用を進め、もっとアピールして、市内外から多くの人が訪れるようにしてもらいたい。貝皿地区でトンネルを掘る際に多くの化石が出ると思う。美山地区で越美北線のトンネルを掘ったときに化石が出たと聞いた。トンネル工事は化石を発見するチャンスだと思う。トンネル工事で見つかった化石をHOROSSA!に運んでアピールしてもらいたい。成果指標にも、和泉郷土資料館やHOROSSA!の利用件数を掲げると良い。
- 文化施設の適切な維持管理について、例えば、学校教育や生涯学習に活用するという文言を追加してはどうかと思う。

【市長】文化財については、保存するだけではなく活用しながら保存していくという発想に変わってきている。文化財保存活用地域計画や化石保全活用計画も、保存と活用の計画になっている。文化施設についても囲ってしまっ見えなくしてしまうのではなく、保存しながら皆さんの目に触れるように活用し、教育にも生かしていこうという考えだと理解している。

教育委員会の施設ではあるが、市長部局に運営を移管されているイトヨの里や博物館のいくつかについては、教育委員会で歴史的なもの文化的なものを担保していただき、市長部局として観光面で利用させていただいている。学校教育や生涯学習で活用することも重要であるので、教育委員会の中で検討いただければと思う。成果指標についても教育委員会で検討いただければと思う。

【麻生委員】中部縦貫自動車道が開通するので、包括的に取り組む施策も盛り込むと良いと思う。

【市長】昨年3月に大野市高速交通アクションプログラムをまとめた。中部縦貫自動車道の県内区間の開通時期については、北陸新幹線敦賀駅の開業と同時期にとお願いしており、それが達成されると、3年後には中部縦貫自動車道が開通することになる。それに向けて、大野市役所としてどんな準備をしていけばいいのかということをもとめたものである。このアクションプログラムで大きな方向性を示し、市役所だけでなく、民間の方や市外の方が気付いたことから取り組んでいただけるようにと考えている。アクションプログラムの内容については、別の機会に紹介させていただきたい。

化石に特化した話としては、中部縦貫自動車道のトンネル掘削で出てきた岩石については、教育委員会の化石を担当する学芸員が現地を確認し、使える石はいただいている。本年度も出てきた石の一部をHOROSSA!に運び込み、大学生にも協力してもらって仕分け作業をしたと聞いている。化石の分量的には、今後に期待したいという状態である。

【關委員】文化財課に関する成果指標が2つというのは寂しい。学芸員の講師派遣を行っているので、それを成果指標に設定しても良いと思う。

博物館の民具が多いので、予算がかかると思うが、専門家に依頼して整理すると良いと思う。

【文化財課長】成果指標については、事務局で再度検討して教育委員会で意見を聴く。博物館の整理は現状の職員で取り組んでいきたい。

【教育長】本日は、SDGsや子育て、健康づくり、文化財などいろいろな方面で市長の思いをお聞きした。この後は、2月と3月の定例教育委員会でしっかりと教育方針をまとめていきたい。

【市長】全体を通して教育委員会と一緒に頑張っていきたいこととして、全庁的に全国的な表彰制度を活用する取り組みを進めている。教育委員会関係でも表彰を受けた事例がいくつかあり、大野市の取り組みや文化的なものが認められたとい

うことでもあるので大変ありがたく思っている。引き続き、全国表彰制度に乗れるようなもの、とりわけ教育関係では頑張っている市民の方やグループが多くあるので、引き続き光を当て続けていきたいと思う。

令和2年度大野市教育方針（素案）については、以上とする。

【市長】協議事項（2）その他について、何かあればお願いします。

——<発言なし>——

【市長】教育に関する大綱については、平成28年度から平成32年度までの計画となっており来年度に最終年度を迎える。第六次大野市総合計画が来年度に向けて検討が続いていくので、この計画と整合を取りながら策定する必要がある。来年度の後半以降、総合計画の方向が見えてきた段階から、教育に関する大綱についても、次の大綱について検討していく。そのときは、総合教育会議にお諮りするのよろしくをお願いします。

4 閉会

【教育総務課長】これをもって、第2回大野市総合教育会議を閉会する。

午前11時20分終了